

どうぶつこうえんニューズ



千葉市動物公園
Chiba Zoological Park

No.50

2003

冬

ニホンザル赤ちゃん続々誕生 (霊長目・オナガザル科)

オラ、ニホンザル。第一位のオスです。ボスと呼ばれるほどではありません。このたびオラがサル山についての近況報告をすることになりました。

5月から7月にかけて、5頭の赤ちゃんが誕生しました。赤ちゃんたちの誕生日に近いのは、オラたち季節繁殖動物だからです。山々が色づく晩秋から冬にかけて、オラたちの恋の季節です。みんな顔とお尻が真っ赤に色づきます。約175日の妊娠期間の後、若葉の季節に1頭の赤ちゃんを出産します。みんな夏毛に変わり、サル山は活気にあふれます。



「赤ちゃんと母親たち」

赤ちゃんの成長はあっという間です。生後4～5日で這おうとします。2週間後には時々よちよち歩きで母親から離れようとしませんが、母親は赤ちゃんの足をしっかりとつかんで引き止めます。1ヶ月もたてば母親から離れて遊ぶようになります。赤ちゃん同士でレスリングを始めるのもこのころです。母親はもう引き止めたりはしません。3ヶ月後にはだいたいふしかりして、6ヶ月もたてばほぼ離乳が終わり、ひとり立ちの準備ができます。

オラたちの1年を、かけ足でふり返ってみました。赤ちゃんのいるサル山は、とても絵になります。しかし頭数が増え過ぎると、限られたスペースの中で、ストレスやけんかなどのさまざまな問題がおきます。このため園の方針で、繁殖制限を行っています。ファンの皆様に赤ちゃんの姿をお見せできない年があり、残念ですが、これもオラたちの健康のためです。

最近ちょっと気になることがあります。農作物を荒らす、一部の野生のやつらがいることです。でもオラたちは日本で最もヒトに近い野生動物だということをわかってほしいのです。皆様（ヒト）と共存できる日が来るように願うこのごろです。

横山 浩 (Hiroshi Yokoyama)

目次

CONTENTS

表紙【ホオジロカンムリヅル】	①
トピックス【ニホンザル赤ちゃん続々誕生】	②
連続講座【「動物の暮らし・人の暮らし」開催】	③
子ども動物園はいま…	④・⑤
区民祭・産業祭に参加してきました	⑤
動物公園の動物【バードホールの鳥(ホウオウジャク)】	⑥
飼育よもやま話【オランウータン】	⑥
動物公園日誌から【'03.8/1～'03.10/31】	⑦
裏表紙【アメリカビーバー】	⑧
Information	⑧

表紙の動物説明 ホオジロカンムリヅル

ツルの仲間には15種いますが、ホオジロカンムリヅルとカンムリヅルはカンムリヅル亜科として他のツル類と区別されています。

嘴が短く、気管は巻いてなくて、卵は斑紋がありません。またホオジロカンムリヅルは樹上にとまったり営巣することもあり、形態的にも生態的にも異なった点も多く、ツルの仲間では最も古い種だといわれています。

2種ともアフリカ大陸に広く分布し、後頭部にネギ坊主みたいな冠羽があるのが特徴で、頬の大部分が白いのがホオジロカンムリヅルです。

秦 舜二 (Syunji Hata)

動物飼育数

平成15年10月末現在の飼育数

Classified number of animals
as of 31.Oct.2003

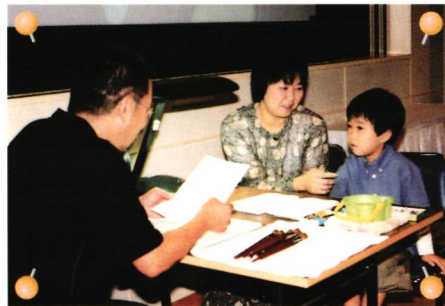
哺乳類	64種	417点	両生類	1種	2点
鳥類	81種	322点	魚類	0種	0点
爬虫類	5種	22点	総計	151種	763点

6月14日は京都大学でチンパンジーの研究をしている落合知美氏をお招きしての「人の幸せ・動物の幸せ」のお話でした。子ども達に「一番幸せに感じる時はどんな時?」と問いかけると「友達といっしょにいる時」「何か一生懸命やってできた時」などの答えがたくさん返ってきました。「では、動物はどんな時に幸せ?」との問いかけには「食べる時」「遊ぶ時」などの答えも。「動物の幸せは、本当はどういうところに暮らしてどんなふうに家族や仲間と過ごしているかなど、その動物の身になって考えてみるのが大切です。」とのお話でした。「天才アイちゃんとその子どもアユム君」をはじめ、楽しく暮らしているチンパンジーの映像も交えて、あっという間の1時間でした。



いうところに暮らしてどんなふうに家族や仲間と過ごしているかなど、その動物の身になって考えてみるのが大切です。」とのお話でした。「天才アイちゃんとその子どもアユム君」をはじめ、楽しく暮らしているチンパンジーの映像も交えて、あっという間の1時間でした。

9月21日は旭川の動物絵本作家あべ弘士先生をお迎えし「動物からの贈り物」と題した講演と、絵のプレゼントという催しを行いました。旭山動物園で25年あまりの飼育係を経験し、現在は絵本作家として超売れっ子のあべ先生とあって、台風による大雨のなか、70名ものお客様にお集まりいただきました。講師ご紹介の際は、NHKのアナウンサーで千葉市女性センター館長の加賀美幸子氏の朗読による「ライオンのよい一日」(佼生出版社)のビデオを見ていただきました。旭山動物園時代の体験など笑いのうずに包まれました。絵の創作には、子ども達の伸びやかな感性に学ぶことが多かったとのこと。その後、あらかじめ募集した「動物にまつわる詩」に、即興で挿絵を描き、詩を書いた3名のお子さん(市内在住の大須賀敦哉さん3歳、片寄ももかさん8歳、藤原芙美花さん8歳)にそれぞれプレゼントしていただきました。会場のお客様も先生があっという間にすてきな絵を描く様子をスクリーンでごらんいただきました。



先生が3人のお子さんにいろいろ語りかけたり質問すると、はじめは緊張の面持ちでしたが、最後に自作の詩を朗読する時は、みんな自信を持って読み上げ、大きな拍手に包まれました。なお、朗読ビデオは動物科学館ビデオコーナーでどなたでもごらんいただけます。



「動物の暮らし・人の暮らし」開催!

今年は新しい試みとして、年間テーマを決めて連続で講演会を催しました。テーマは「動物の暮らし・人の暮らし」です。多彩な講師の顔ぶれで、毎回楽しい講演会となりました。

9月13日は千葉市動物愛護センター獣医師の山本一重氏により「ペットと暮らす」と題したお話でした。イヌやネコなどの身近なペットについてその習性や本能をよく知ること、私たち人間とうまくやっていけるということでした。講演の後、ペットのことで相談したいお客様からの質問に、ていねいにお答えいただきました。



10月5日は動物写真家のさとう彰先生による「動物の暮らしを撮る」でした。午前中は写真教室に14名が、午後の講演会には50名の参加がありました。教室も講演も、オリジナルのテキストを書き下ろしていただき、中身の濃い時間を過ごすことができました。動物を何度も時間をかけてよく見ると、だんだん次にどんな行動をするか予想ができ、自分の目的とする写真を撮ることができるのお話でした。同じ動物をゾーッと根気よく見続ける集中力も必要であり、良い写真を撮るには自分なりのテーマをもつことが鍵のようです。



並木 美砂子 (Misako Namiki)

リニューアル開園して
2年たった子ども動物園
は、元気いっぱいです。
開園以来、遠足をはじめと
して子どもたちがたくさん
足を運んでくれています。ど
うもありがとうございます。

子ども動物園は いま...

遠足といえば、やはり、
桜咲く春の季節、そして、
すがすがしい秋のシーズ
ンですね。

今回は、子どもたちに
大人気の「**団体指導**」に
ついてご紹介しましょう。

2月中旬～11月

火・水・木・金（土・日・祝祭日を除く）

- 【午 前】10:30～12:00
- 【午 後】1:00～2:00
- 【対 象】幼児～小学校低学年
- 【ふれあえる動物】ハツカネズミ、テンジクネズミ（モルモット）を中心。

12月中旬～2月中旬

（団体指導はありません）

団体指導までの手続き

- 1) 学校からお電話をいただく。その際に、団体指導を希望される日時（○月○日○時から、○時まで）を伺います。→**仮予約**（お電話だけでは本予約とはなりません）。
- 2) 遠足予定日の2週間くらい前までに「子ども動物園」へお越しいただきます。**「団体指導申込カード」**に記入しながら、詳細を打ち合わせます。
◎貸出教材もごございますので、お気軽にお声をおかけ下さい。
- 3) 団体指導当日、開始時間の5分ほど前には、指定場所に集合します。



打ち合わせ風景



実際に体験してもらいます

また、団体指導以外の**一般の方に対するふれあい活動**も実施しています。

2月中旬～11月

- 【午 前】10:30～12:00
- 【午 後】1:00～2:00、2:30～3:30

12月中旬～2月中旬

- 【午 前】お休みです
- 【午 後】1:00～3:00
（土・日・祝祭日は、2月中旬～11月の時間と同じです。）

◎詳細は、**子ども動物園係**までご連絡下さい。

ヤギとヒツジの広場での団体指導



レクチャーのあとの体験



ヒツジにエサをあげます

コンタクトコーナーでの団体指導



動物とのふれあい方を指導します



ふれあい中

なお、子ども動物園では時間を決めて、動物達への給餌を下の予定表のように実施しています。

動物	ウマ	ヤギ・ヒツジ	フンボルトペンギン	プレーリードッグ	カピバラ	ニホンリス
お食事タイム	11:30頃 13:30頃	11:30頃 14:00頃(※)	10:10頃 16:10頃	10:20頃 (室内)	12:00頃	11:00頃

(※) この時間帯はお客様もヤギやヒツジに餌をあげることができます。

林 まさ代(Masayo Hayashi)

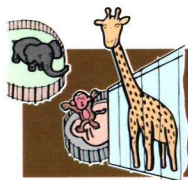
区民祭・産業祭に参加してきました



動物公園では10月から11月の初旬にかけて市内各所にて区民祭・産業祭に参加しました。各会場とも盛況な中、動物公園のPRとして動物パズルやクイズに挑戦してもらい招待券・球根・動物を模った風船を、又、産業祭ではこの他にシマウマのお面をプレゼントしました。このお面の作成を科学館でイベントのない土・日・祝日11:30よりワークショップとして実施しておりますので興味ある方はぜひご参加ください。



シマウマのお面



動物公園ニュース (動物公園の動物)

バードホールの鳥(ホウオウジャク)

現在、動物科学館のバードホールには、15種40羽の鳥が飼育されています。その中で、一番小さな鳥が今回紹介するホウオウジャクです。

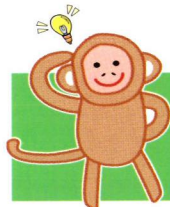


体長約13~15cmとシジュウカラぐらいの大きさです。メスは、スズメのような色をしているために、多くの人が見つけてもスズメと勘違いしています。オスは、繁殖期と非繁殖期で羽装(生殖羽と非生殖羽)が異なります。非生殖羽はメスとほぼ同じですが、生殖羽はまったく異なり、背側はほとんど黒色、首の周囲が赤褐色から黄褐色です。さらに最大の特徴として、体の3倍にもなる長い尾羽があります。この尾羽、中央の2枚だけが長く、付け根から幅が徐々に広くなり、先1/3位から細くとがっていきます。しかし他の尾羽は羽軸が長く伸び、針金のようになっています。そして、飛んでいる姿は、2本の尾羽が風にひらひらと漂っているように見えます。まるで『天女の羽衣』とはこのようなものなのかと思わせるような優雅さです。

またこの鳥、自分では巣を作らずカッコウのように他の鳥に托卵をします。そこで、繁殖させるためには、托卵をする相手と一緒に飼育しなければならないのです。ただ一緒に飼育すれば繁殖するというわけではなく、托卵の相手が繁殖して、ようやくこの鳥に繁殖の可能性が出てくるのです。将来はぜひ繁殖に挑戦してみたいと思っています。

バードホールでは、流れの上流の岩や、その裏にあるワイヤーに止まっている姿をよく見かけますので、2本の尾羽に注目して探してみたいはいかがでしょうか。

伴野 修一 (Syuichi Banno)



飼育よもやま話

オランウータン

私もオランウータンとの付き合いは長く、彼らの生息地スマトラ島(※)まで行ったこともあるくらいですが、思いおこせばなぜか、つらかったこと、大変だったことばかりが浮かんで来ます。オランウータンは動物の中でも屈指の破壊王で、人間の予想だにしないことをやってのけます。力も強いし、頭もいい、しかも執念深いというから手におえません。かれこれ7頭のオランウータンを飼育してきましたが、中でも思い出深いのはやんちゃ坊主のJ君。彼は当時まだ若かったので身も軽く、寝室に收容するときに餌だけ取って逃げられたり、屋内展示室のライトに水をかけてガラスを割られたり、コードを引っ張り出されたり、中でも圧巻だったのは、放飼場の格子窓から手の届かないところにかけてあったほうきを笹の枝を使って器用に取ったのですが、キーパーが来るまで待っていたふしがあり、私と目が合った瞬間に見事に取り出したのです。そのとき彼は確かにニヤッと笑いました。そんな彼も今は旭川の旭山動物園に行き、立派にお父さんになったようです。そして今はオスのフトシ君と、メスのナナ嬢の2頭を飼育しています。今年新たにオランウータン舎が新設されたのですが、それに伴ってまたさまざまなことがありました。旧獣舎の真向かいに建設されたので、怖がりのナナ嬢は工事中まったく外へ出なくなってしまったのです。外へ出てくれなくては掃除がままなりません。あの手この手を使ってみましたが、結局は中に一緒に入ってお掃除ということになってしまいました。そして晴れて完成し、無事移動後もナナ嬢は今度は新しい部屋が気に入らなかったのか、出したが最後戻ってこないという事態に……。そしてその後も新しい施設に興味津々のフトシ君と、不安でいっぱいナナ嬢によって獣舎の破壊は続いたのです。



※オランウータンはボルネオとスマトラ2亜種あり、当園はボルネオオランウータンです。

伊藤 泰志 (Yasushi Ito)



動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

’03年8月1日～’03年10月31日

- 8月2日 モウコノウマ 腰マヒ予防薬の投与
- 8月4日 フンボルトペンギン 体重測定の実施
- 8月5日 ホオジロカンムリヅル 産卵あり
- 8月8日 ムフロン 放飼場の金網の交換
- 8月15日 ムフロン(雌1) 肺炎にて死亡
- 8月16日 草原ゾーン総合獣舎内 扉等交換工事
- 8月17日 シロガオマーモセット(2頭) 繁殖
- 8月18日 アフリカハゲコウ(雄1・雌1) 業者より交換にて新着
- 8月19日 異業種研修 1名 受け入れ(22日まで)
- 8月21日 私立高等学校 体験研修 8名 受け入れ(22日まで)
- 8月22日 ショウガラゴ(雌1) 死亡
- オーストラリアゾーン放飼場 白カビ発生のために塩素消毒 実施
- 8月23日 チンチラ(1頭) 繁殖
- フンボルトペンギン 換羽終了
- モンキーゾーン TV取材あり
- 8月26日 異業種研修 1名 受け入れ(27日まで)
- 8月28日 コウラウン(1羽) 死亡
- 東武動物公園へ動物事前視察のため1名を派遣



- 8月29日 Zooキッズデー(小学1・2年生対象)開催 15組30名参加
- 8月30日 TV取材あり
- 8月31日 クロザル 性皮膨らみ目立つ
- モンキーゾーン TV取材あり
- 9月3日 アカハナグマ フィラリア予防薬投与
- 9月5日 アフリカハゲコウ(2羽) 馴化施設から草原ゾーンに移動
- 9月6日 シロオリックス TV取材あり
- 9月7日 ハイイロヤケイ(雌1) 卵管閉塞にて死亡
- 9月8日 マラリア予防薬 投与
- 9月10日 クロミミマーモセット(2頭) 検疫明けにて科学館に移動
- ウマ、ロバ全頭 削蹄を実施
- 9月11日 ベニバシガモ(ヒナ) 断翼の実施
- 9月12日 ゴリラ(モモコ) 体重測定 129.5kg
- 9月13日 連続講座「ペットと暮らす」開催
- 9月14日 シロミミキジ(雄1) 肺出血にて死亡
- 9月16日 アジアゾウ 放飼場に遊具の設置
- アフリカハゲコウ(2羽) 断翼の実施
- 9月17日 エンペラータマリン(雌) 検疫明けにて科学館に移動
- 9月18日 フンボルトペンギン(雄) 出血性胃腸炎にて死亡

- 9月19日 シロミミキジ(雌)、ヒオドシジューケイ(雄)、ヨシガモ(雄) 交換にて業者より新着
- ビグミーマーモセット(雄) 検疫明けにて科学館に移動
- 9月21日 連続講座「動物からのおくりもの」開催
- 9月22日 ルーセットオオコウモリ 繁殖
- チンパンジー 寝室のフロアー工事
- 9月23日 スイギュウ舎 床塗装工事



- 9月28日 「ワンポイントウォッチング」開催(オランウータン)
- 9月30日 ワオキツネザル(1頭) 繁殖
- 10月1日 トナカイ(雌) ツノの落角みられる(重さ300g)
- 10月2日 シマウマ等 腰マヒ予防薬 投与
- ペンギン等 マラリア予防薬 投与
- アカハナグマ フィラリア予防薬 投与
- 10月5日 連続講座「動物の暮らしを撮るとは？」開催
- 10月6日 サル山 寝室内シュートの補修工事
- 10月8日 ヒオドシジューケイ(雄) 心筋梗塞にて死亡
- シロミミキジ(雌) 検疫明けにてキジ舎に移動
- 10月12日 ゲルディーモンキー(1頭) 繁殖
- 折り紙教室



- 10月13日 ゆかいな森の音楽会
- 10月14日 フラミンゴ池 池清掃
- ニホンザル 入れ墨作業を実施(今年生まれ)
- 10月15日 モントレー市 副市長夫妻 視察あり
- 10月16日 市内中学校 職場訪問 6名 受け入れ
- 10月17日 ゲルディーモンキー 12日繁殖個体 衰弱にて死亡
- 10月19日 「ワンポイントウォッチング」開催(グレイビーシマウマ)
- 10月20日 園内施設点検のため 全園停電
- 10月21日 海獣技術者研究会 1名出席(於:城之崎マリンワールド)
- 10月22日 市内中学校 職場体験実習 5名 受け入れ(24日まで)
- 市内中学校 職場訪問 6名 受け入れ
- 10月25日 ペンギン池 清掃
- 10月26日 エンペラータマリン(雌1) 腎不全にて死亡
- 秋のZooクイズラリー
- 10月28日 ソウ会議 2名出席(於:よこはま動物園)
- 市内小学校へ総合学習指導のため2名を派遣
- 10月29日 ウマ全頭 腰マヒ予防薬 投与
- 10月30日 市外中学校 職場訪問 11名 受け入れ
- 牧野 辰男(Tatsuo Makino)



アメリカビーバー



Information

平成15年12月・平成15年1月・2月の 催し物一覧

- ★ 12月 7 日 ㊦ ワンポイントウォッチング(ロバ)
- ★ 12月 14 日 ㊦ クリスマスシアター
- ★ 1 月 2 日 金・3 日 ㊦ 新春お年玉プレゼント
- ★ 1 月 5 日 ㊦ 臨時開園
- ★ 1 月 11 日 ㊦ バードウォッチング
- ★ 2 月 8 日 ㊦ 写真コンクール講演会
- ★ 2 月 29 日 ㊦ ファミリーシアター

上記以外の土曜・日曜・休日は動物公園映画会を上映